

第16回 共同主催 公開講演会
公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
兵庫県立粒子線医療センター

膵臓がんと肝臓がんを粒子線治療で治す！ ～兵庫県立粒子線医療センターの戦略～

講演会ガイド



日 時 令和元年 11 月 30 日(土)
13:00～16:00 (受付開始 12:30～)

場 所 兵庫県民会館 けんみんホール

主 催 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 兵庫県立粒子線医療センター

後 援 文部科学省 厚生労働省 公益財団法人日本対がん協会
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子医学・医療部門放射線医学総合研究所
公益社団法人日本放射線腫瘍学会

開催趣意書

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団は、加速器等から発生する粒子線等により先端的がん治療をはじめとする各種放射線による疾病の治療ならびに診断等、放射線利用技術の研究を推進するとともに、その普及を図ることにより、科学技術の振興を図り、もって人類の福祉向上に寄与することを目的として、各種事業を展開いたしております。

放射線を利用した医療技術は、今や国民生活にとって欠かせない重要な役割を果たしております。とりわけがんに対する放射線治療は、機能と形態を温存し、高い QOL（生活の質）を維持し治療できる長所をもっており、他の治療法と比較して、患者に優しく、年齢に関係なく治癒を目指せる優れた治療法といえます。ところが、わが国では、放射線医療に関する正確な情報が一般の方々へ十分伝わっていないという側面があり、残念ながらその真価が正当に評価されていないことが多いのが実情であります。

このため、当財団では、「人にやさしいがんの放射線治療」をテーマとして、放射線利用技術が診断・治療等のさまざまな医療の現場で活用され、役立っていることを、広くわかりやすく一般の方々へ紹介し、国民生活に身近で、貢献度の高いものであることを理解いただくことを内容とする「公開講演会」を毎年各地で開催しております。

今回は、令和元年 11 月 30 日（土）に神戸市において兵庫県立粒子線医療センターと本財団とが共同で開催いたします。

公開講演会は 2 部構成で、第 1 部では「人はがんとどう向き合うか？」をテーマに、医師であり自身が患者も経験した垣添忠生から、患者や家族、周りの方々が抱えている悩みや社会全体が直面している課題、およびその対策、取り組みなどをお話しいたします。

また、第 2 部は「膵臓がんと肝臓がん」をテーマとして、患者会の代表の方々より患者や家族の視点から、がん治療に対する思いや期待についてお話しいただきます。加えて、陽子線と重粒子線という 2 種類の粒子線治療が可能な国内唯一の施設である兵庫県立粒子線医療センターの取り組みについてご紹介させていただきます。

この公開講演会を通じて、放射線医療への関心・理解を深めていただき、患者自らががんをよく知り、恐れず積極的に向き合う環境づくりを進める一助になることを目指します。さらに、膵臓がんや肝臓がんをはじめとする難治がんの治療に積極的に取り組んでいる兵庫県立粒子線医療センターについて、より多くの皆さまに知っていただき、兵庫県・関西地域のみならず広く国民全体の福祉の向上につながることを期待しております。

主催 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 兵庫県立粒子線医療センター

後援 文部科学省 厚生労働省 公益財団法人日本対がん協会
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構量子医学・医療部門放射線医学総合研究所
公益社団法人日本放射線腫瘍学会

プログラム

第16回 共同主催 公開講演会
公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
兵庫県立粒子線医療センター

膵臓がん と 肝臓がん を 粒子線治療で治す！ ～兵庫県立粒子線医療センターの戦略～

開催日時 令和元年11月30日（土） 13:00～16:00

開催場所 兵庫県民会館 9階 けんみんホール 神戸市中央区下山手通4-16-3

司 会 沖本 智昭 （兵庫県立粒子線医療センター 院長）

13:00～13:05 開会挨拶 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
常務理事 遠藤 真広

【第1部】

13:05～14:35 特別講演 「人はがんとどう向き合うか？」
【90分】 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 理事長
公益財団法人 日本対がん協会 会長 垣添 忠生

14:35～14:45 休 憩 （10分間）

【第2部】 「膵臓がん と 肝臓がん」について

14:45～15:00 講演1 「重粒子線治療への期待
【15分】 ～膵臓がん患者の治療成績向上を目指して～」
特定非営利活動法人 パンキャンジャパン理事長 眞島 喜幸 氏

15:00～15:15 講演2 「肝がん と 重度肝硬変の治療について」
【15分】 肝炎友の会 兵庫支部 会長 山本 宗男 氏

15:15～16:00 講演3 「膵臓がん と 肝臓がん を 粒子線治療で治す！
【45分】 ～兵庫県立粒子線医療センターの戦略～」
兵庫県立粒子線医療センター 院長 沖本 智昭



えんどう まさひろ

遠藤 真広

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
常務理事

略 歴 : 昭和48年 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了
昭和48年 科学技術庁放射線医学総合研究所（放医研）入所
臨床研究部主任研究官、重粒子治療センター治療システム開発室長、
重粒子医科学センター医学物理部長などをへて
平成21年 企画部長で定年退職
平成22年 九州国際重粒子線がん治療センター副センター長兼技術統括監
平成28年 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団常務理事
放医研在職中の昭和59年1月から1年間、米国ローレンス・バークレイ研究所
にて重粒子線治療の医学物理について研修

表彰など : 平成18年 文部科学大臣表彰 科学技術賞
平成21年 産学官連携功労者表彰 経済産業大臣賞
平成29年 日本医療科学研究大賞厚生労働大臣賞
平成13-18年度、22-25年度 日本医学物理学会会長



「人はがんと どう向き合うか？」

かきぞえ ただお

垣添 忠生

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
理事長

公益財団法人 日本対がん協会 会長

生年月日 : 1941年4月10日

出生地 : 大阪

略歴 : 1967年東京大学医学部医学科卒業。同年東京大学附属病院で研修し、都立豊島病院、医療法人藤間病院外科に勤務後、1972年東京大学医学部泌尿器科文部教官助手。この頃から膀胱がんの基礎研究に携わり、大学の勤務終了後、夜、国立がんセンター研究所に通って研究を続ける。1975年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務し、1987年同病院手術部長、第一病棟部長、副院長を経て、1992年1月に病院長、同年7月に中央病院長、2002年4月総長に就任。2007年4月国立がんセンターを退職し、同名誉総長、財団法人日本対がん協会会長に就任。

専門は泌尿器科学だが、発がん全般、特に膀胱発がん、前立腺発がんについては今も強い関心をもっている。立場上、がんの診断、治療、予防に幅広く関わり、全がんに目配りしてきた。がん予防、がん検診、緩和医療に対する関心も強い。国立がんセンター田宮賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞、並びに瑞宝重光章などを受賞。

主な著書 : 『発がんからみた膀胱がんの臨床』(メディカル・ビュー社)

『がんと人間』(共著 岩波新書)

『患者さんと家族のためのがんの最新医療』(岩波書店)

『前立腺がんで死なないために』(中央公論社)

『妻を看取る日』(新潮社)

『悲しみの中にいるあなたへの処方箋』(新潮社)

『がんと人生』(中央公論新社)

『巡礼日記 - 亡き妻と歩いた600キロ』(中央公論新社)

『「カキゾエ黄門」漫遊記』(朝日新聞出版) など



「重粒子線治療への期待 ～ 膵臓がん患者の治療成績 向上を目指して ～」

まじま よしゆき

真島 喜幸

特定非営利活動法人 パンキャンジャパン
理事長

略歴： 1948年東京生まれ。Ottawa University、UCLA School of Public Health 修了後、博士号課程に進み、Rand Corporationにて健康政策分析プロジェクトに参画。2006年に実妹を膵臓がんで亡くし、米国の膵臓がん患者支援団体 Pancreatic Cancer Action Network の日本支部 (PanCAN Japan) を設立、米国本部とがん研究支援活動も連携し進めている。その後、自身も家族性膵臓がんの疑いがあることを知り、2012年に膵臓がんが見つかり全摘手術を受けた。2018年、頭頸部がんの為、3剤併用療法と放射線化学療法を受け、現在に至る。

国際標準治療薬の早期国内承認に向けたドラッグラグ解消、プレシジョンメディシン (ゲノム医療) の実現に向けた政策提言活動にも注力している。

理事・委員： International Neuroendocrine Cancer Alliance 理事
全国がん患者団体連合会 理事
World Pancreatic Cancer Coalition メンバーシップ委員会 委員
Global Action for Cancer Patients 運営委員
American Association for Cancer Research 「Cancer Today」 諮問委員
厚生労働省 平成28年度がん対策推進総合研究事業中間・事後評価委員会 委員
日本製薬工業協会 患者アドバイザリーボード委員 (3期目)
日本膵臓学会「家族性膵癌登録委員会」患者委員
日本膵臓学会「膵臓がん診療ガイドライン2019策定委員会」患者委員
日本神経内分泌腫瘍研究会「膵・消化管神経内分泌腫瘍 (NEN) 診療ガイドライン2019策定委員会」外部評価委員
ほか多数

特定非営利活動法人パンキャンジャパンについて

特定非営利活動法人パンキャンジャパンは、米国非営利団体パンキャン (Pancreatic Cancer Action Network) の日本支部として2006年に設立されました。

【パンキャンの3つの使命】

- ① 研究者・医療者支援 — 我が国のがん研究支援、膵臓がん研究者と海外の研究者とのコラボレーション、家族性膵がん登録システムの支援、研究シンポジウム資料の提供
- ② 患者・家族支援 — 治療成績を改善する最新のゲノム医療などの最新情報をニュースレター、セミナー・相談会、勉強会を通して提供
- ③ 希望を与える — 草の根運動をとおして膵臓がん啓発パープルリボン活動、政策提言活動

パンキャンジャパンは、皆様のご協力・支援によって支えられているボランティア団体です。愛する家族・親族・友人を膵臓がんから守るために、膵臓がん撲滅のために立ち上がりませんか。

【年会費】 個人賛助会員：5,000円 団体賛助会員：100,000円 (入会費0円)

【連絡先】 〒102-0071 東京都千代田区富士見1-12-1 QDAN1991ビル 5F

TEL：03-3221-1421 FAX：03-3221-1422 E-mail：info@pancan.jp

ホームページ <https://www.pancan.jp/>



「肝がんと重度肝硬変の 治療について」

やまもと むねお

山本 宗男

肝炎友の会 兵庫支部
会長

- 役 職** : 日本肝臓病患者団体協議会（代表幹事）、ひょうごがん患者連絡会（副代表）、
兵庫県・政令市・中核都市難病連（委員）
- 略 歴** : 昭和 18 年 兵庫県生まれ（現在 76 歳）
 （自己紹介） 昭和 54 年 B 型ウイルス性肝炎発症 高砂市民病院入院（当時 36 歳）
 昭和 56 年 京都府立医大 インターフェロン治療に入る
 昭和 62 年 肝炎友の会兵庫支部 発足（設立総会参加）
 昭和 63 年 明石市民病院に転院（インターフェロン保険認可）
 平成 3 年 日本肝臓病患者団体協議会（全国組織） 発足
 平成 4 年頃 インターフェロン（スミフェロン）3 年間（1/週）連続投与
 平成 10 年 肝炎友の会兵庫支部 会長就任
 平成 18 年 がん対策基本法 制定
 平成 19 年 兵庫県肝炎対策協議会 発足 委員就任、ひょうごがん患者連絡会発足（設立総会参加）
 平成 20 年 日本肝臓病患者団体協議会 代表幹事就任
 平成 21 年 肝炎対策基本法 制定（各党党首 お礼参り）
 平成 24 年 厚労省「集団予防接種等による B 型肝炎感染拡大の検証及び再発防止
 に関する検討会」検証会議委員就任（月 1 回 1 年）
 平成 27 年 肝炎対策推進議員連盟 発足 会長：尾辻秀久氏（元厚労大臣）
 毎年（20 数回） 国会請願（日本肝臓病患者団体協議会） 実施

肝炎友の会兵庫支部について

- 目的** 早期発見と適切な治療で、後悔したり苦しんだりする人の極小化。
- 方法** ①広く医療と福祉の向上を働きかける。 ②知識の習得、普及、啓発の活動をする。
 ③会員相互の情報交換と親睦を図る。
- 活動** ①講演・相談会 肝炎友の会・難病連主催 年 7 回以上
 ②公開講座 肝炎対策協議会・肝臓学会・自治体等に共催/後援等 年 3 回以上
 ③電話相談 山本 宗男 tel 079-423-5114 (19 時～21 時)
 (ウイルス性) 中村 伸一 tel 0798-34-6184 (月～金 17 時～19 時)
 山口千佳子 tel 078-451-7807 (月～金 19 時～21 時)
 (自己免疫性) 安達 岳範 tel 0795-82-0865 (19 時～21 時)
 ④会報の発行 年 4 回 (講演内容・医療情報・国と県の動き・会員の声)
 ⑤交流親睦会 年 12 回 (ウイルス性、自己免疫性)
 ⑥患者の要望 国 (厚労省、各政党)、自治体 (県、市町) への働きかけ
 ⑦PR 年 1 回 チラシ掲示・備付 (市・町、保健所、病院・医院)
- 会費** 年 3,000 円 (入会金 1,000 円) **会員** 患者と家族 (現在 240 名)
- 連携** ①日本肝臓病患者団体協議会 ②ひょうごがん患者連絡会
 ③兵庫県、神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市難病団体連絡協議会
- ホームページ** 肝炎友の会兵庫支部 <http://kanenhyogo.kan-be.com/>



「膵臓がんと肝臓がんを
粒子線治療で治す！
～ 兵庫県立粒子線医療
センターの戦略 ～ 」

おきもと ともあき

沖本 智昭

兵庫県立粒子線医療センター
院長

略 歴 : 昭和 37 年 広島県生まれ

平成 2 年長崎大学医学部卒業、長崎大学放射線科入局。以後、同放射線科医員、長崎大学第一病理大学院、長崎大学第一病理助手、広島県立広島病院放射線科医長、山口大学医学部附属病院放射線科講師、北海道がんセンター放射線診療部長を経て平成 26 年から兵庫県立粒子線医療センター副院長、平成 27 年から同院長となり現在に至る。

7 年間病理医として勤務した経験、テキサス大学での留学経験、日本各地でがんに対する様々な放射線治療を学んだ経験を生かし、現在は陽子線と重粒子線という二種類の粒子線治療を行える国内唯一の施設の院長として臨床の最前線でがん診療に従事している。

役職など : 神戸大学客員教授

大阪大学招へい教授

The Best Doctor in Japan 2016-2017、2018-2019 受賞

新名医の最新治療 2017 (週刊朝日 MOOK) で名医 100 人に選出

2018 年版 国民のための名医ランキング (桜の花出版) に選出

著 書 : 『がん医療の今 (第 1 集～第 3 集)』市民のためのがん治療の会編

『がんは放射線治療でここまで治る (第 2 集)』市民のためのがん治療の会編



黄色い葉は痛くない、切らない、簡単な3つを表しています。
緑の葉はやさしい治療を表しています。
「Quality of Life」というコピーは、
放射線治療がQOL（Quality of Life）の向上に大きく寄与し、
がん治療の新しい時代を切り拓いて行くという決意を表しています。



公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団

〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16
ニッケイビル 5 階
TEL: 03-5645-2230 FAX: 03-3660-0200
<http://www.antm.or.jp/>



兵庫県マスコットはばタン

兵庫県立粒子線医療センター

〒679-5165
兵庫県たつの市新宮町光都 1-2-1
TEL : 0791-58-0100 FAX : 0791-58-2600
<https://www.hibmc.shingu.hyogo.jp/>